

御挨拶

雪印種苗株式会社

社長 松原太郎

いつも「雪印のたね」をご愛用いた
だき、心から厚くお礼申し上げます。

科学は日進月歩、止まるところを知
りません。テレビジョンやジニット機
に驚いた時代は、もう過去のものと
なり、今や月の世界はおろか、火星へ
まで飛んでゆこうという時代になりました。

農の基礎をつくる自給飼料作物の「良
いたね」を、最新の感覚と最新の技術、
完璧な施設と良心的なサービス精神と
によつてつくりあげ、皆様の御利用い
ただく日をお待ちいたして居ります。
安心して播くことが出来、しかも一
度播けば必ず多収穫を約束出来る「雪
印のたね」を、皆様の農業経営発展の
ために、この秋もまたお忘れなく御用
命下さい。

これからのお酪農

全国の乳牛の頭数は八〇万頭、年間の牛乳生産量は一千万石に達し、日本の農業界は、正に酪農ブームの観があります。確かに、酪農は日本の農業の新しい方向であり、酪農の普及は、遊んでいる土地を活かし、地力を増進し、年間の労力を上手に使うことが出来、然も国民の食生活の改善に役立つことでしょう。

しかし、酪農をやつしているからといって決して安心はなりません。年中、家畜に追われ、家畜の病気や乳価の値下り、飼代の支払いに頭を悩ましている人はありませんか。

酪農には、家畜がつきものです。その家畜を上手に飼わなければ、ただただ苦勞のみ、もうかる酪農どころか、乳価や肉価の値下り、あるいは貿易の自由化などの声におびえるばかりです。

酪農経営には、よい設備、良い家畜、良い管理が必要です。貴方が、今すぐ改善出来ることは、「良い管理」で、この中で、直ちに効果のあることは、「良い飼料をタップリ食べさせる」ことなのです。

「良い飼料」とは、種々の栄養分を充分含み、家畜が好きで、然も段階が安くなければなりません。それには、家畜のために選ばれ、家畜のために改良されて来た「牧草や青刈作物」を、自分で作るのが一番です。

「牧草や青刈作物」は、つくりやすく、何處でも、誰でも、容易に増産することが出来、家畜の本来の食物として、いろいろの養分を含んでいます。

安くて、思い通りに手に入れることが出来る自給飼料作物を、貴方の畑に、水田に、山野に栽培することは、貴方の家畜を健康にし、生産があがり、飼料代や労力が節約され、地力は増進し、もうかる酪農をもたらします。

牧草と園芸 目次 秋季特集号

表紙写真説明

(夏の日ざしをさけて、木陰に牧草を食む乳牛の群)

- 御挨拶……………三
- これからの酪農……………三
- 飼料作物の種類……………四
- 飼料作物をつくる場所……………五
- 飼料作物のまき時と収穫期……………六
- まめ科牧草……………七
- 青刈用飼料作物……………三
- 家畜用根菜……………四
- 芝生用牧草……………五
- 畑地の飼料生産……………四
- 水田の飼料生産……………六
- 雪印種子セット……………九
- 特価表……………七
- ビニール案内……………六
- 九